

2022年2月13日 礼拝メッセージ レジュメ

「キリスト教の生老病死・復活⑤—地獄—そして、私たちにできる事」

【イントロ】

①死に関する復習

死後の世界について、他の宗教にも様々な見解や考えがある。しかし、最も違うのは、聖書は死後の世界はもちろん、私たちに死を与える原因について唯一言及している事。

死の原因は「罪」、そしてその解決策「罪を取り除く(贖罪)イエス様」さえも準備されていた。

②死後の裁き

聖書の黙示録20章には、人間であれば誰でも受けなければならない「死後の裁き」について記録されていた。「行いの書」によって裁かれ、「いのちの書」について描かれている方は、イエス様と過ごす永遠の時が許されている。

③復活

そして、聖書には私たちが復活して永遠の時を過ごすことが記されている。復活とは、「人が一度死んで永遠に生きること」だ。その初穂となられたのがイエス様。幽霊としてではなく新しい体として生まれ変わり、永遠に過ごすことになる。

(→しかし、人間は誰でも復活する。イエス様を信じなかった人は、永遠の体を持って地獄へ行くことになる。今回はその点について学ぼうと思う)

【地獄とは】

①聖書に出てくる地獄

黙示録20章14節～15節「それから、死も死後の世界も全く無力にさせられた。これが第二の永遠の死である。命の書に その名前が記されていない者は皆、この永遠の恐ろしい苦しみの中に投げ込まれた」

永遠の恐ろしい苦しみの中＝地獄

②イエス様が語られた地獄

●イエス様もこの地上でお働きをされた時に、地獄という場所について語られた事があった。

- ・ マタイ5:29～30、マタイ18:8～9(新改訳)＝ゲヘナ
- ・ マタイ5:22、ルカ12:5＝ゲヘナ
- ・ マタイ10:28＝ゲヘナ
- ・ マタイ8:12＝暗闇の場所

●ゲヘナ

旧約聖書のヨシュア記15章8節にも登場する実在の場所。古代エルサレムの南端にあるヒンノムの谷という場所にある、昔のゴミ捨て場。ゴミを燃やすために常に火が焚かれていた(焚いていたというよりは、ゴミが燃えていた)。また、死体の焼き場としても用いられていた。

また、旧約聖書の歴代誌にはアハス王とマナセ王が自分の子供をモレクという偶像に捧げた場所としても有名だ。偶像に命を捧げる場所。

●イエス様が語られた地獄の意味

イエス様は、当時の人が実際に見聞きしていた具体的な場所を示しながら、地獄がどういう場所であるかを説明された。イエス様がゲヘナという言葉が使われた時は聞いている人が具体的なイメージを持ちやすいようにされたと同時に、実際の永遠の地獄を意味していた。

(いくつかの聖書ではゲヘナを地獄と訳している)

● どういう人々が行くのか

黙示録20章14～15節

黙示録21章8節「しかし、臆病で信仰を否む者、信仰を裏切る不忠実な者、異教の様々な罪に陥っている者、クリスチャンを迫害し殺した者、不道德な者、魔術を行う者、偶像を礼拝する者、全て偽りを言う者たちは、永遠の恐ろしい苦しみの中に入らなければならない。これが第2の永遠の死である」

(時間があれば)

誤解

- ・ セカンドチャンス論
- ・ 靈魂消滅論/アンヒレーション(セブンズアドベント・エホバの証人)
罪人や邪悪な人の魂は消滅する絶滅する。

【まとめ：地獄を前にしてできること】

- 映像「地獄から来た手紙」
- 大宣教命令
- 祈り